

# 平成28年度西播磨地域夢会議 参加者発言記録（H29.2.12）

## ワールドカフェ テーマ別発表

### テーマ1：ひとと暮らし

#### テーブル2

2030年の望ましい姿：地域活性化が進んだ西播磨

そのための対策：西播磨の特産物を活かした商品開発、雇用創出

- ・異業種の組合せによって新しいアイデアを出し、世界に発信。地域を愛する人材を増やす（成功例：相生市 食と農を守るかあちゃんずの柚子みそ、牡蠣）。
- ・歴史資源も活用。

#### テーブル4

2030年の望ましい姿：西播磨の田舎ならではの自然を活かした社会

現在の課題：耕作放棄地が多い／働く場所がない／子育てしにくい環境

解決方法：既存の制度を利用して、空き家を有効活用。子育てや介護などの悩みを若者が共有し話し合う場所を作る。

#### テーブル3

2030年に向けて、絆を太くする（みんなで助け合って一生生きていく）。

自治会行事等を利用して、若者もお年寄りも交流し、コミュニケーションを深める。

#### テーブル1

若者・子どもたちと高齢者との交流が大切。

それを可能とするために、若者が西播磨に帰ってきて生活できるよう、働ける場所づくりに力を入れる（企業誘致など）。

### テーマ2：まちや地域

#### テーブル10

西播磨の豊かな自然を活かした地域産業のPR。

インターネット掲載により西播磨全体の行事を広く紹介（佐用町では既にある）。

#### テーブル9

2030年の望ましい姿：ふるさとを愛する人が集う街

現在の課題：交通の便が悪い、姫新線等ローカル線の利用者数の減少

解決方法：コンパクトシティ化、一人暮らし高齢者の買い物サポートシステム構築、行政と市民・町民とのコミュニケーションを深める。

（コーディネーター田端先生コメント：若者をステークホルダーとして組み入れる）

## テーブル 8

2030年の望ましい姿：高齢者・若者がいきいきと活躍する社会

そのために、

- ・西播磨の魅力の発信（若者用に SNS、高齢者用にポスター、さらに口コミでも）
- ・企業誘致（従業員として来る若者を増やすため。従業員環境が良い点は企業人気の理由の一つ。西播磨の自然環境の良さをアピールする）
- ・西播磨管内だけではなく、管外ともコミュニケーションをとる。

## テーブル 7

2030年の望ましい姿：世代を越えて楽しく過ごせる地域

そのために、

世代を越えたコミュニティリーダーの育成（リーダー育成によってコミュニティが充実する（世代を越えて参加できるイベント等）。これによって、世代を越えたネットワークがつながっていき、ひいては地域産業の活性化につながる。

## テーマ 3：産業としごと

### テーブル 13

若者目線で議論した。

現在の課題：若者が遊ぶ場所が少ない／遊びに行くための交通の便が悪い

解決策として、

- ①若者の集う環境づくりのために、大型モールの誘致。これによって雇用創出も可能となる。

（コーディネーター田端先生コメント：消費者目線に立った社会）

- ②公共交通網・インフラの整備

### テーブル 14

- ・2030年に残っている仕事はそもそも少ないのでは。その中で生き残る可能性がある仕事＝AIができない仕事＝農業・林業・地場産業を伸ばしていく必要がある。
- ・働く場所づくりよりも新しい価値観、新しい働き方を創出する。田舎だからこそできる働き方を発信していく。
- ・まずは西播磨の外に出てノウハウを身に付け、それからふるさと西播磨に戻ってきて良さを再発見してほしい。

### テーブル 15

西播磨の特産品のPR力強化が必要。

具体的には、特産品の付加価値の向上、ブランド化、さらに発信力を強化する必要がある。

## テーマ4：安全安心

### テーブル24

災害時のために、地域間交流を深める。

具体的には、

- ・個人個人が近所で挨拶。
- ・自治会、老人会、子ども会を通じて近所と繋がる。
- ・これらの小規模の繋がりから、徐々に大規模な交流に繋げていく。

### テーブル22

2030年の望ましい姿：高齢者が安心して病気になれる地域

生きていくためには絆しかない。絆を作るため、地域の人と信頼関係を築く（病院に行く時にタクシーがつかまらなくても、近所の人に送ってもらえる環境づくり）。

具体的には、

- ・日頃から、近所で挨拶などコミュニケーションをとる。
- ・学校、集会所での避難所訓練、イベントに参加する。

### テーブル23

災害時のハザードマップ作成や、防犯カメラ設置も重要だが、それ以上に、地域の人との絆を深めることがより重要。

そのために、

- ・様々な年代のご近所さんと付き合う。
- ・県民局の県民交流広場事業の補助金を利用する（当事業を再度立ち上げてほしい）。

### テーブル20

絆が大切。

各高校が絆づくりのために多様な活動を頑張っていることを、もっと知ってほしい。

- ・太子高校 ハザードマップ作成
- ・赤穂高校 東北への東日本大震災復興ボランティア
- ・千種高校 敬老の日に、高校生の手作りマフィンを高齢者に配る
- ・山崎高校 敬老の日に、高校生の手作りマフィンを高齢者に配る  
週一回、お弁当持参で独り暮らしの高齢者を訪問する

高校生は、高齢者からの「ありがとう」の一言やお礼の飴をもらって嬉しい気持ちになっている。将来もずっとその気持ちを持ち続けていてもらいたい。